
赤紙

hagakure

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤紙

【Nコード】

N45610

【作者名】

hagakure

【あらすじ】

犬破裂するああああああ

夕方の夕暮れの日暮れ時の夕映え。真っ赤に燃える犬畜生。はす向かいに見えるはか細い手足の、かつ長いブルジョア階級御用達、ロン毛の白人みてえな不気味な犬畜生でござあ。あれはたしかボルゾイという犬であると近所の顔面神経症のトップブリーダーが真顔で云っていたっけ。馬鹿馬鹿しい。本当にその犬が好みなのかよ。自分の特権的階級を誇示しているだけだろう。車感覚で動物飼ってんじゃねえよ、秋田犬を飼え、秋田犬を。畜生、ヨーロッパがなんだい、ベントツがなんだい、セックスがなんだい、顔面が平面で何が悪い、手足が短くて何が悪い。

俺はなんだか無性に腹が立って、気がついたらボールのへそを下にして慎重にアスファルト面にセットしていた。それは試合中、時折陥る感覚、コンセントレーションが極限まで高められたあの感覚に非常に近いものだった。俺は淀みなくその作業を終えると、5歩後ろに下がり勢い、ボールの中心よりやや右側を下から擦り上げるようにしてインサイドで蹴り挙げていたのだった。

ぎゃん！

断末魔とともに弾け飛ぶ犬畜生。恐らくベスという名前だったのだろう。極限まで集中力が高められているので当然わかる。滑らかなブロンドの犬毛は舞い上がり、それは夕焼けの真っ赤を浴びてアトランダムにさんざめいている。びちびちと音をたてて肉片がアスファルトに沁み入る。内蔵・脳漿・血痕・血痕・肉球。その光景は、この世のものとは思えぬ程美しかった。気がつく俺は射精してい

た。

俺がそんな美しくも残酷な光景に見とれていると、いかにもドルチエ&ガツバーナといった風体の飼い主がつかつかと歩み寄ってきて、ピー、ホイッスルを吹いた。俺は何か、天気がいいね、とかそういうニュアスかな、と勘ぐっていると、男はやおら胸ポケットをまさぐり、プラスチック製の赤い文庫本サイズのカード的なものを、まるで名刺を渡すかの如く非常に丁寧に渡してきたのだった。

俺は、なんて腰の低い飼い主さんだろうか、と我が愚行を呪い丁重にかつ極めて穏便にその赤いカード的なものを頂戴したのである。

そのようにして俺はレッドカード一発退場処分を食らったわけであるが、後日JFA（日本サッカー協会）の方からも書面にて厳重注意をされたし、「犬を破裂させると一発退場（犬種問わず）」との規定が公式ルールブックにも記載されていたので、俺は甘んじて謹慎処分を受けたのであった。

しかし思い返せばあの飼い主、全身ドルチエ&ガツバーナにクロムハーツという出で立ちであったのにも拘らず、日ハムのベースボールキャップを被っていたのは何故だろうか。コーディネートを無視するほどにファンなのだろうか。というかあえてそういうコンセプトなのだとしたら、ファッションとは実に奥の深いものである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4561o/>

赤紙

2010年10月23日05時24分発行